

院内がん登録

がんセンター 横井 美由紀



2020年分の「院内がん登録」の集計結果をご報告いたします。

院内がん登録は、病院で診断、治療された全ての患者さんのがんについての情報を診療科問わず病院全体で集め、その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査です。がん検診で見つかった患者さんが多いのか、他の病気がかかっているうちに発見された患者さんが多いのかなど受診までの経過の違いやがんの種類別の違い、あるいは手術の数が多いか少ないかなど病院のがん診療の特徴を把握するために定期的に行われています。

登録対象 入院外来を問わず、下記の期間中、新たに受診・診断・治療の対象となった腫瘍

期間 2020年1月～12月

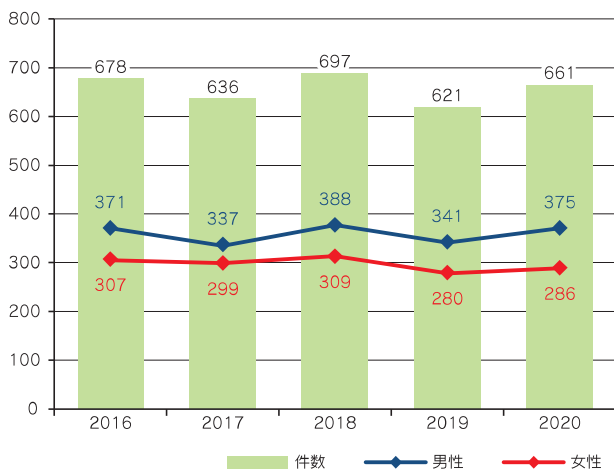
件数 全登録数666件のうち、症例区分80その他を除く ※集計対象件数：661件

※国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する全国集計において症例区分80その他を除外したデータを集計対象と定義しています。症例区分80には、他施設で診断され治療目的に紹介されたが、治療が行われず他施設へ紹介となるようなケースの症例が分類されます。

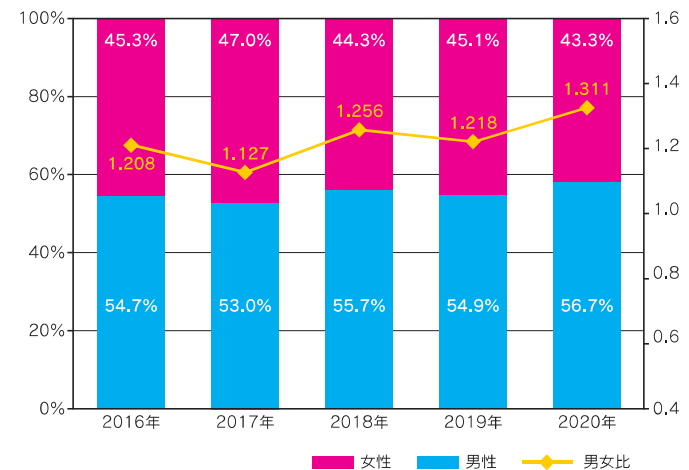
◆がん登録件数は医療機関で診断、確認された症例数であり、がん発生数罹患数とは異なります。同一症例が他の医療機関でも重複登録される場合があることから、場合によって両者に大きな差が生じることがあります。

◆個人情報につきましては、法令および厚生労働省のガイドラインに基づき適正に取扱い、保護、管理を行っています。

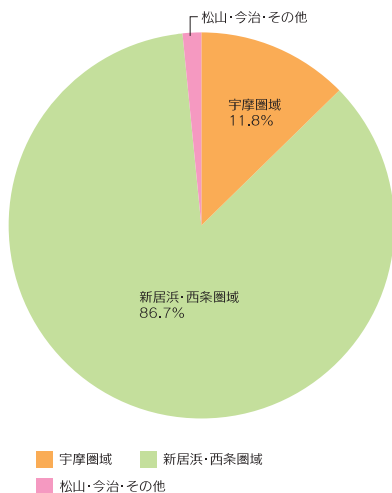
●登録数の年次推移



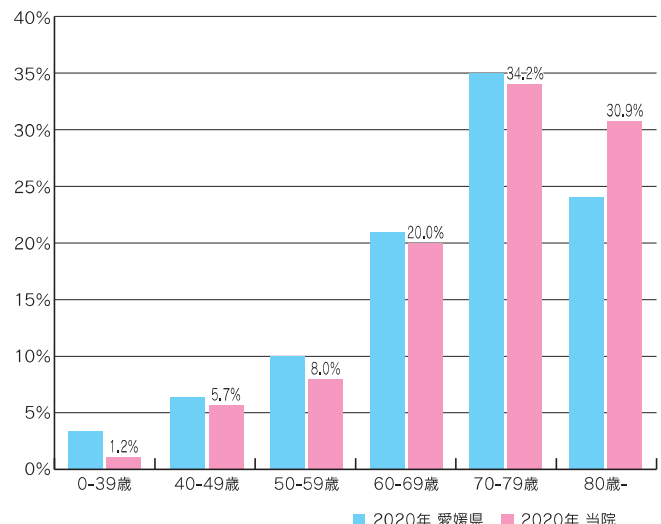
●男女比の年次推移



●診断時住所別の登録割合



●年齢階級別登録割合 愛媛県全体との比較



● 部位別登録数(10未満は幅を持たせた表記としています)

2020年症例の部位別登録数上位5部位は、大腸(117)、前立腺(83)、胃(80)、乳房(68)、皮膚(47)です。

診断年	2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
口腔・咽頭	11	1.6%	13	2.0%	(7~9)	-	(7~9)	-	(7~9)	-
食道	16	2.4%	14	2.2%	18	2.6%	(7~9)	-	14	2.1%
胃	65	9.6%	83	13.1%	66	9.5%	82	13.2%	80	12.1%
結腸	66	9.7%	54	8.5%	68	9.8%	61	9.8%	77	11.6%
直腸	31	4.6%	35	5.5%	36	5.2%	41	6.6%	40	6.1%
肝臓	33	4.9%	27	4.2%	24	3.4%	21	3.4%	27	4.1%
胆嚢・胆管	(7~9)	-	(7~9)	-	15	2.2%	10	1.6%	(4~6)	-
膵臓	26	3.8%	35	5.5%	26	3.7%	21	3.4%	35	5.3%
喉頭	(4~6)	-	(1~3)	-	(4~6)	-	(1~3)	-	(4~6)	-
肺	34	5.0%	45	7.1%	29	4.2%	22	3.5%	28	4.2%
骨・軟部	(1~3)	-	0	-	0	-	(1~3)	-	0	-
皮膚(黒色腫を含む)	29	4.3%	25	3.9%	23	3.3%	20	3.2%	47	7.1%
乳房	78	11.5%	80	12.6%	80	11.5%	81	13.0%	68	10.3%
子宮頸部	35	5.2%	34	5.3%	30	4.3%	16	2.6%	20	3.0%
子宮体部	16	2.4%	10	1.6%	(4~6)	-	(7~9)	-	11	1.7%
子宮	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
卵巣	(1~3)	-	(1~3)	-	13	1.9%	(1~3)	-	(1~3)	-
前立腺	86	12.7%	55	8.6%	68	9.8%	93	15.0%	83	12.6%
膀胱	54	8.0%	36	5.7%	44	6.3%	33	5.3%	38	5.7%
腎・他の尿路	19	2.8%	13	2.0%	41	5.9%	25	4.0%	20	3.0%
脳・中枢神経系	(4~6)	-	(4~6)	-	17	2.4%	(4~6)	-	(4~6)	-
甲状腺	18	2.7%	19	3.0%	21	3.0%	(4~6)	-	(1~3)	-
悪性リンパ腫	14	2.1%	16	2.5%	15	2.2%	20	3.2%	24	3.6%
多発性骨髄腫	(4~6)	-	(1~3)	-	(4~6)	-	(1~3)	-	(1~3)	-
白血病	(4~6)	-	(4~6)	-	(7~9)	-	(7~9)	-	(1~3)	-
他の造血器腫瘍	(4~6)	-	(7~9)	-	10	1.4%	(1~3)	-	(1~3)	-
その他	10	1.5%	(7~9)	-	22	3.2%	21	3.4%	15	2.3%
合計	678		636		697		621		661	

当院は1966年に現在地へ移転後、新居浜・西条地区の中核病院としての役割を担っており、2005年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けてからは、愛媛県東予地域でのがん診療に取り組んできました。がん診療の中核となる医師の充実を図るとともに院内のメディカルスタッフのレベルアップを継続的に行ってきました。高い専門性を有するがん化学療法認定看護師やがん専門薬剤師といった専門スタッフは、チーム医療を推進する上で欠かせない存在となりました。また、がん診療に欠かせない様々な医療機器のインフラ整備も進めて参りました。2018年の病院建て替えの際には、がん診断に不可欠なPET-CTを新規設置、外来化学療法室の整備、強度変調治療(IMRT)が可能な放射線機器の更新を行いました。

2019年に手術支援ロボットを導入し、泌尿器科癌、直腸癌では実運用をしており、胃癌に対しても愛媛大学の指導のもとルーチン化に向けて症例を積み重ねています。2021年には病棟改修を行い、緩和病棟を正式に新設しました。がんの診断から治療、緩和ケアに至るまで、がん診療を当院で完結できる設備が整備され、今後もさらなる充実を図るつもりです。

当院でのがん登録者数は、年間600人台で推移しています。登録時の住所は新居浜・西条圏域が86.7%、宇摩圏域が11.8%となっており、新居浜・西条および宇摩地区の一部が当院の担当医療圏と分かります。その部位別の特徴としては消化器癌、乳癌、前立腺癌が大半を占めており、これらの部位は部位別の責任症例割合も高値を示していました。常勤の専門医が在籍していることが患者や周辺医療機関の方々にも認知されており、担当医療圏で集約されつつあるものと思います。一方、呼吸器癌や血液腫瘍は登録件数も少なく、部位別の責任症例割合も低値にとどまっています。常勤医不在のため、多くの症例が中予地域での加療を余儀なくされており、当院がこれから取り組むべき課題と考えます。年齢階級別の割合では、例年通り全国平均や愛媛県平均と比べ、80歳以上の患者が占める割合が高くなっています。高齢化が進むと、合併症などの影響で標準的な治療が困難なケースがあり、個々の症例に応じた治療選択が重要となります。愛媛県東予地域における地域がん診療連携拠点病院として、担当医療圏のがん診療レベルの向上にむけて、これからも整備を進めてゆく予定です。

(診療部長 松原 稔)